

令和 3 年度 学校経営計画表

1 学校の現況

学校番号	4 4	学校名	茨城県立波崎柳川高等学校					課程	全日制		学校長名		人見 茂				
教頭名	小貫 弘一										事務（室）長名		齋藤 克久				
教職員数	教諭	1 8	養護教諭	1	常勤講師	5	非常勤講師	3	実習教諭, 実習講師, 実習助手		1	事務職員	4	技術職員等	4	計	3 9
生徒数	小学科		1 年		2 年		3 年		4 年		合計		合計 クラス数				
			男	女	男	女	男	女	男	女	男	女					
	普通科		4 8	3 4	4 1	5 1	4 8	5 7			1 3 7	1 4 2	9				
	普通科（体育コース）				0	0	1 1	0			1 1	0	1				

2 目指す学校像

一人一人の自己実現に対応した教育を実践する学校 (信頼される安心安全な学校・明るく活気のある学校・地域とともに歩む学校)

3 現状分析と課題 (数量的な分析を含む。)

項 目	現状分析	課 題
進路指導	昨年度末の進路結果は、進学 55%、就職 37%、未定 8%であった。一昨年度は進学 32%、就職 57%、未定 11%であり、進学者が増加し未定者が減少した。進学や進路決定に対する意識の向上が見られた結果であると思われる。一方で、本校の生徒は、学習習慣が定着しておらず、学習状況リサーチでは3年生の多くの生徒が「全く学習しない」という状況で、学年が上がるに従い、学習時間が減少する傾向にある。反面、「成績を伸ばしたい」「学習の方法がわからず悩む」と回答する生徒が約半数いる。他にも「進路について悩む」生徒が各学年 30%程度いることもわかっている。これらを踏まえ、各学年において組織的な対応が求められる。	学習習慣の定着と学力の向上については、能動的に仕掛ける必要があり、指導体制に生徒・保護者・職員が期待できるように (特に各教科で) 働きかける必要がある。特に I C T の効果的な活用によって職員の負担を増やさずに学習活動の活性化を図ることが重要である。また、「生徒の実態に合ったプログラム」を最適に行いながらも、学力向上と進路実現を達成させる必要がある。学年と各校務分掌が連携し、生徒一人一人に「自己存在感」「有能感」「達成感」が得られる体制づくりが急務である。
生徒指導	昨年度に比べ、事故報告件数(問題行動 13 件、交通事故 4 件)が若干であるが減少している。コロナウイルス感染拡大の防止のための休校処置があり、登校日数が例年より少なかったことが背景にあると考察できる。自転車通学者の接触事故防止など、交通マナー・交通安全指導は継続指導が必要である。また、大半の生徒は落ち着いた学校生活を送れているが、規範意識の低い生徒もいるため、基本的生活習慣の指導も継続し、引き続き時間厳守の徹底、服装頭髪指導が必要である。	登下校時における交通事故の多発、問題行動の多くが校外で発生していることから、校外巡視を強化するとともに地域・保護者・学校が連携し組織的な生徒指導の充実・徹底を図り、事故の未然防止に努める必要がある。また、意図的・計画的な指導により、自発的に健康・安全管理、規範意識の向上に取り組むことのできる人間力を育てる。

別紙様式 1 (高)

特別活動	生徒数が減少したが、部活動加入者は全体の 55.9% とわずかであるが回復した。特に女子の加入者率が 27.9% となり、前年に比べ 9.7% の伸びを見せた。生徒会主体の行事運営は活発なものになり、地域企業との交流活動も形として残すことができた。常任委員会については昨年度の反省を活かし、計画的な活動が見られるようになってきた。意欲的な生徒が増えており、様々な場面で中心となるリーダーの育成が必要である。	新しい時代に活躍する人材の育成を目指し、部活動や学校行事を活性化させる必要がある。人間性を向上させる。部活動については、加入率 70% を目指す。学校行事等については、各常任委員会を連携させ、より積極的な活動としていく。その中で生徒一人ひとりに役割を持たせ、責任感を育てる。
働き方改革	きんむくんの使用によって、勤務時間、超過勤務など時間管理の意識が高まっている。	部活動顧問や学級担任が超過勤務になりやすい。顧問間や副担任との業務の分担を図る必要がある。

4 中期的目標

1 全生徒の進路実現を目指した授業の実践（改善と質の向上）	2 社会的に自立するための実行力の育成
3 地域社会や関係諸機関との連携強化と良好な教育環境の構築	4 業務の改善や全職員の連携など効率的な働き方

5 本年度の重点目標

重点項目	重点目標
学習指導	① 授業研究等による授業改善（生徒の実態に即した授業・対話力・発信力を意識した授業・学ぶ楽しさが実感できる授業） ② ICT環境の整備と改善（c l a s s iの活用） ③ 観点別評価の工夫
特別活動・部活動	④ 集団を率いるリーダーの育成・主体性を育む学校行事（キャリアパスポートの活用） ⑤ 生徒会活動の充実・常任委員会活動の活性化 ⑥ 部活動の活性化と加入率向上
生徒指導	⑦ 時間遵守・服装指導をきめ細かく行い、基本的生活習慣を確立する ⑧ 校内外において交通安全指導を強化し、命の尊さや交通マナーについて理解させ、生徒の規範意識を高める ⑨ SNSの使用に関するマナーの向上
進路指導	⑩ キャリア教育の充実・ICT活用の推進・学習の振り返りの強化 ⑪ ゼミや資格指導の体制改善 ⑫ 進路相談体制の改善 ⑬ 企業連携プログラム・高大連携プログラムの推進
地域・関連機関との連携	⑭ 関係諸機関との連携（神栖3コソシップ事業、「PTA」「同窓会」との連携、高大連携事業等） ⑮ 地域とともに歩む事業（柳川小、波崎三中、神栖三中との交流、地元企業との連携事業）
働き方改革	⑯ 全職員の連携と業務の効率化 ⑰ 「ワーク・ライフ・バランス」の意識浸透